

フラッシュ・メモリ書き込みツールWriteEZ2を使ったI/Oポート実験プログラムのマイコンへの書き込み

SM+のシミュレーションで正常動作が確認できました。作成したプログラムを78K0Sマイコン・ボードで実行するためには、78K0S/KA1+にプログラムを書き込む必要があります。

本章では、フラッシュ・メモリ書き込みツールWriteEZ2を使って、実際に78K0Sマイコン・ボード上の78K0S/KA1+に書き込みを行い、動作を確認します。

7-1 78K0Sマイコン・ボードの設定

78K0Sマイコン・ボードのMODEスイッチをPROG(プログラム)側にし、WindowsパソコンのUSBポートに直接、またはUSB延長ケーブルを介して接続します。

一連の操作を写真7-1に示します。

7-2 78K0Sマイコン・ボードのCOMポート番号を確認

Windowsパソコンに接続した78K0Sマイコン・ボードは、WindowsパソコンからはCOMポートとして認識されています。Windowsからは単なるUSB経由のCOMポートとしか見えないため、WindowsアプリケーションであるWriteEZ2は、何番のCOMポートに78K0Sマイコン・ボードが繋がっているのかを自動的に判定することはできません。したがって、WriteEZ2では、何番のCOMポートに78K0Sマイコン・ボードが繋がっているのかを手動で指定する必要があります。

また、COMポートの番号は、ケーブルの着脱などを繰り返したり、ほかにUSB-シリアル変換アダプタを使ったりすると変更される可能性があります。使い始める前に、念のため確認しておきましょう。

COMポートの番号は、デバイス・マネージャで確認できます。図7-1のように、“ポート(COMとLPT)”を展開して“USB Serial Port”を探します。ここでは“COM4”に割り付けられていることがわかります。

7-3 フラッシュ・メモリ書き込みツールWriteEZ2の起動

WriteEZ2は、第2章で解説したように、C:\NECELEY\WriteEZ2にあります(図7-2)。

WriteEZ2をダブルクリックすると、図7-3のようにWriteEZ2が起動します。